～ECを支える物流拠点の最新事情を探る～

物流センター・拝見

通販・EC市場の拡大に伴い、これまで以上に重要度を増している物流センター。増える物量の一方で、労働環境整備や将来的な働き手不足に備えて、生産性や省人化を考えた仕組みや設備を整えることも求められる。通販・EC実施企業各社が使用する物流センターとはどのようなものなのだろうか。注目すべき物流拠点を紹介する。

第10回　久喜センター（アドレス通商）

メーリングや物流サービスなどを手がけているアドレス通商では、埼玉県内にマルチ機能型の拠点として「久喜センター」を運営している。メーリング、物流、流通加工の３工程を軸に展開し、通販企業をはじめとした様々なクライアントに一気通貫の支援を提供。とりわけ、メーリングにおいては、近年、価格競争が激化しており、同センターでは最新の専用機器の導入による効率化を推進。中でも、目玉となるのが国内では希少な封入・封函機で、定形外サイズの封筒にも対応しているほか、紙封筒とOPP封筒のどちらでも加工することができるという。手作業以上の正確性に加えて、多様な規格の封筒にも対応できるほか、コストも10分の１近くまで圧縮。短納期の発注にも対応している。

物流においては特に、出荷前の動作確認といった検品作業やギフト向け商品の梱包などを得意としている。長年のキャリアを持ったスタッフによる作業品質の高さには定評があり、海外からの荷物の取り扱いについても、クライアントの要望に応じた複数のチェック項目を漏らすことなく実施。機械化を進めながらも、人の手だからこそできるきめ細やかな作業を何よりも重視している。

「久喜IC」から５分に位置する同センターは、東北自動車道・圏央道の利用が可能。３つの棟で構成されており、延べ床面積は約２万㎡となっている。

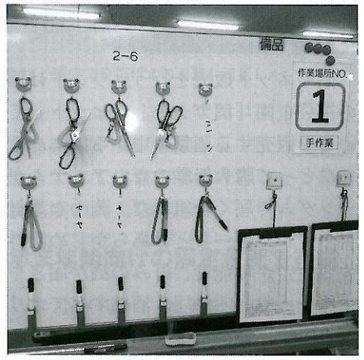
検品済みの商品が置かれている倉庫スペース

エアシャワーも完備している

入室前にはホコリの吸引や手指の消毒などが徹底されている

ギフトラッピング用の専用機

スタッフによる検品・梱包作業の様子



事故や異物混入防止などのため、備品の管理を一目で分かるようにしている

定形外サイズの封筒にも対応した特殊な封入・封函機

天井高のあるスペースに積み上げられた荷物

現場を支える社員やパートスタッフたちの休憩スペース

「次の工程はお客様」ということを大事にしています。社内であっても、自分から次の人に渡した作業はすべてお客様に商品を渡しているという意識を持つことです。何十年も前に社内で言われた言葉ですが、それを忘れたことは一度もありません。私も、現場の社員には「保護者目線・消費者目線」の両方を持って作業に当たって下さいと伝えています。大切な子供にプレゼントをした親の気持ちになって、商品を検品して包装する。そうしたことをきっちり極めることが作業品質の向上につながると思います。

アドレス通商
業務本部　久喜業務推進部　部長
久喜センター所長
関口 久雄 氏